

番組審議会議事録

開催年月日：平成 25 年 1 月 29 日(火) 17 時 00 分～18 時 00 分

開催場所：木更津ビューホテル

委員の出席 委員総数 7 名

出席委員数 6 名

出席者の氏名： 藤波陽四郎（委員長）、早川令子（副委員長）、渡辺知尚、
平野 満、磯貝弘一、村重正明

欠席委員の氏名： 山口貴史、

放送事業者側出席者： 石村比呂美、池田和隆、兼平健一

1. 議 題

- ・木更津ファイアーインフォメーション（11 月 30 日・12 月 7 日放送）について

（村重 委員）

出演していたレスキュー隊員、消防予防課の職員、お二人とも若干言葉を選びながら話をされている感じがしましたが、親しみやすく聴くことができました。

一昨年 3 月 11 日に東日本大震災が発生して以来、市民の皆さんも防災について意識をすることが増えた中で、普段は会う機会がない方々が自分達の仕事に意気を感じて取り組み、市民の生活を守っていることがとても頼もしく思える内容でした。

また、木更津市での消防・救急活動について聴いている際、君津市や富津市、袖ヶ浦市はどのような状況、取り組みをされているのか気になりました。

消防・救急活動は広域的に考えなければならないものであると思うので、かずさエフエムを中心として上総地域 4 市の消防・救急活動について紹介をしてもらえれば、自分が住んでいる地域だけではなく他市の状況も知ること、より安心を実感した生活ができると思いますし、それがコミュニティエフエムとしての役割を果たすことではないかな、と思いました。

(平野 委員)

一昨年3月11日の東日本大震災発生以降、富津市では津波に対する防災がクローズアップされており、また富津市消防防災センターも今年3月に完成することから、防災に対する市民の関心も高くなっています。

レスキュー隊員、そして、消防予防課の職員の方が自分達の言葉で伝えることで、火災、救急搬送、交通事故などに対して日夜努力されているのが市民にも伝わり、より理解してもらえるのではと感じました。今後もぜひ続けて放送していただきたいと思います。

(早川 副委員長)

出演されたお二人のお話は、テンポがとてもゆっくりで、簡潔な話し方でしたので、とても分かりやすかったです。特に、レスキュー隊員の方のお話は大変興味深く聴くことができました。

消防予防課の職員のお話は、「寝タバコはやめましょう」など、常識的で誰でも守らなければならない内容について紹介されていて、ラジオで1つずつ話していただくと、年配の方などはあらためて注意しなければならないと思ってもらえるのでは、と感じました。

また、私自身が君津市に住んでいますので、君津市のレスキュー隊はどうなっているのだろうか。広範囲で大きな災害が発生した場合、他市のレスキュー隊とどのようにして連携するのだろうか。広域的な観点でのお話も伺えれば更に安心して生活できるのでは。という思いを持ちながら番組を聴いていました。

(渡辺 委員)

木更津市内における消防・救急活動がどのような状況であるのか、どのような問題点があるのか、行政側がきちんと伝えることは大変重要であり、事例を持って説明することを今後も続けていきたいと思っております。

ホームページ等もしかり、情報を出す頻度が弱かったり、内容がきちんと伝わらなければ意味がないのですけれども、石村さんが話を上手く区切りながら質問形式で番組を進め、出演者の人間味を引き出すような質問をされているので、とても良かったです。

行政が市民に対して取り組んでいる姿勢を伝えてもらえることで、番組の付加価値が高まっていくのではと思います。

(磯貝 委員)

これまで、火事や救急、119 番のかけ方、消火器の使い方、住宅用火災報知の設置、地震への対策などについて取り上げられていて、市民へ防災・災害情報を確実、正確に伝える地域の情報源として、素晴らしい内容だと感じました。

一方、番組がスタートしてから 5 年が経つということで、消防という特定の分野でのテーマで番組作りに苦労されているのでは、という印象も受けました。また、データを紹介する際、細かいことを伝えていきたい気持ちはあるけれども、上手く伝えきれない部分があるのかな、とも思いました。

総務省が昨年 3 月にまとめた「情報収集手段の変化」という統計資料の中で、ラジオが情報収集の手段として高い割合を占めていたのですが、細かい情報を手に入れることがなかなかできなかった、という調査結果が出ています。

袖ヶ浦市では、職員向けのマニュアル内容の見直しを行っているほか、各家庭向けに火事・地震・水害に対するリーフレットを作成し、配布をしています。かずさエフエムには今後もより良い番組を作っていただきたい、と思っています。

(藤波 委員長)

きちんとした台本があったうえで収録を行っていると思いますが、リスナーが聴きたいと思う内容を相手から引き出す石村さんの話術に、あらためて感心を致しました。

「辛い、苦しい、もう止めた、ということは一切ない」というレスキュー隊員のお話を聴いて、素晴らしい人達がいることをあらためて知りました。

消防予防課の職員の方からは出動件数について紹介をしてもらっていましたが、木更津市の状況は千葉県内においてどのくらいの位置にあたるのだろうか、ということも気にしながら聴いていました。石油ストーブを使った後のチェックや住宅用消火器について等、細かい点について紹介してもらって、とても為になりました。

また、「木更津ファイアーインフォメーション」が、月刊雑誌「近代消防」において評価されているのは、とても素晴らしいことだと思います。かずさエフエムの PR 材料として活用すべきではないでしょうか。

いい内容の番組ですので、今後は多くの人に聴いてもらうことに重点を置いて、番組を制作してもらいたいと思います。

(放送事業者 石村)

今回皆様に審議をお願いした「木更津ファイアーインフォメーション」は、かずさエフエムの前身である木更津エフエムの頃に、私自身が制作したいと思ってスタートさせたもので、収録を行いながら、あらためて認識する事が多い番組です。東日本大震災の被災地で活動された隊員が涙を浮かべながらお話をされたこともあり、消防隊員の皆さんの使命感を毎回感じています。

実際、“消防・救急”というテーマで、これだけの時間を割いて番組を制作しているラジオ局は、ほとんどないと思います。例えば、エフエム世田谷では、前日の火災出動件数を伝えて、火災予防に対する簡単な呼びかけを行う、という内容のコーナーを朝の番組内で生放送しています。

「ファイアーインフォメーション」では、木更津市消防本部の皆さんにご出演をいただき、季節に合わせたテーマで多岐にわたってお話をいただいています。夏休みには、花火の正しい取り扱い方（水を入れたバケツを必ずそばに置く。花火が出なくても、顔を近づけない。）、消防団の活動や身分の保障について等、かなり細かい話をしてもらっており、その点を月刊雑誌「近代消防」で評価されたのかもしれない。

袖ヶ浦市が地域防災計画の見直しを今年度中に完了されるとのことでしたので、今後は、“防災”という観点で袖ヶ浦市消防本部とも番組が制作できるよう、お話を進めていきたいと考えております。